

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4372601163
法人名	有限会社 サカイケアセンター
事業所名	サカイケアセンター もみじ園
訪問調査日	平成 20 年 1 月 18 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 22 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4372601163
法人名	有限会社 サカイケアセンター
事業所名	サカイケアセンター もみじ園
所在地	熊本県合志市野々島字南原5427-1 (電話)096-348-5517

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年1月18日	評価確定日	平成20年2月22日

【情報提供票より】(19年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.4

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 新築 1 階建て
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	9,600 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	700 円		

(4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低	64 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	庄嶋医院 原田歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな住宅街の中に位置するホームは、理念“仲良く 楽しく”“個人の尊重”“地域とともに”の実現に真摯に取り組まれている。運営推進会議や隣の学習センター等立地条件を生かし、地域との関係強化に努力されていることが、住民とのクリスマス会や住民合同の防災訓練により確認できた。開設5年目を迎え、金銭管理や受診対応をホーム側から家族へと変更する等家族との関係再構築に向け努力されている。その試みとして毎月ホーム便りにバイタルや受診日又運営推進会議の日程など個々に周知徹底を図り、家族の協力を得るようになってきている。職員の笑顔での対応により入居者の笑顔を引き出し、出来る事を中心になんにも取組まれる姿は大家族の一員であり、職員の見守りや寄り添いにより、生き生きとした主体的な生活が送られている。運営推進会議も今後更に多くの出席者が見込まれ、地域に密着した取り組みにより地域福祉の一旦を担っていかれる事が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の評価は家族会で取上げ、玄関周りの改修や家族との交流促進に行事への案内をする事で様々な行事の参加・協力が得られるなど、具体的な成果を上げている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価を職員個々が自分のケアを振り返る機会と捉え、今回の自己評価は全職員に振り分け、まとめたものである。職員の気づきや改善点を明確にし、サービスの向上に取り組んでいる。今後自己・外部評価の結果を運営推進会議に提示され、サービス向上に期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的な運営推進会議が、行政・民生委員・区長・家族代表等の参加を得、ホームの現状報告や意見交換を行い、サービス向上に活かしている。委員からの意見により、地域との交流の一環として“いきいきサロン”をホームで開催する等成果が上がっている。家族の参加を輪番制としていたが、次回より全家族の参加が家族会で承認されている。地域の方々への出席を依頼されており、今後更に多くの参加が見込まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に意見や要望を聞く機会と捉え、話しやすい雰囲気作りに努力している。毎年行われる家族会は、家族同志が意見を出しやすいうように開催場所の変更や、家族との協力的体制で臨みたいと金銭預かりを止めたり、受診対応を職員から家族へ変更している。グループホーム又外部の苦情申し立て場所も重要事項の中に明記するとともに事務所に掲示し、家族からの意見をホーム運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会へ加入し、集会への参加や苦役・清掃活動に入居者と一緒に参加する等地域の一員として積極的に活動している。市や自治会・地域の行事等回覧板でリサーチした多くの行事への参加や、ホームの隣にある学習センター等を利用し、近隣の住民との交流が図られている。更なる協力が得られるよう今後も地域との関係強化に期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“個人を尊重” “地域と共に” “仲良く、楽しく”の基本理念を基に、平易な言葉で具体化したホーム独自の理念を作り上げている。“健やかに、和やかに”をホームのモットーとし、サービス内容の一つに地域行事への参加を掲げ、地域住民の方々との交流の促進に努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者及び管理者は定例会議等において理念に向けた実践の方向性を示し、日常的にも事例を通じて指導をしている。玄関に理念を掲げ、理念の実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へ加入し、集会への参加や苦役・清掃活動に入居者と一緒に参加する等地域の一員として積極的に活動している。市や自治会・地域の行事等回覧板でリサーチした多くの行事への参加や、ホームの隣にある学習センター等を利用し、近隣の住民との交流が図られている。学習センターで行われたクリスマス会は地域住民やボランティアの協力が得られ、盛会であったことが写真より窺われた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を職員個々が自分のケアを振り返る機会と捉え、今回の自己評価は全職員に振り分け、まとめたものである。職員の気づきや改善点を明確にし、サービスの向上に取り組んでいる。昨年度の評価は家族会で取上げ、玄関周りの改修や家族との交流促進に行事への案内をする事で様々な行事の参加・協力が得られるなど、具体的な成果を上げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議が、行政・民生委員・区長・家族代表等の参加を得、ホームの現状報告や意見交換を行い、サービス向上に活かしている。委員からの意見により、地域との交流の一環として“いきいきサロン”をホームで開催する等成果が上がっている。家族の参加を輪番制としていたが、次回より全家族の参加が家族会で承認されている。また区の総会では地域の方々の出席もお願いされており、今後更に多くの参加が期待できる。	○	次回より多くの家族や近隣の住民の参加が期待できる。更に開催日程や議題を事前に通知し、自己評価・外部評価の結果を会議で取上げ具体的な改善へ向けた取り組みや多くの意見や要望を出してもらいサービス向上に活かされたいことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の意見交換会や研修会(成年後見制度等)に参加し情報交換や質の向上を図り、生活保護受給者の相談等行政担当者と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月“お便り”の中に、バイタルや次回の定期受診日・定期薬と日常生活状況を手書きし、家族に配布している。金銭管理は原則的には行っていないが、希望により2名の方の預り金があり、個々の出納帳を作成し家族の押印により確認がなされている。職員の異動は家族の訪問時や家族会で紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に意見や要望を聞く機会と捉え、話しやすい雰囲気作りに努力している。毎年行われる家族会は、家族同志が意見を出しやすいように開催場所を変更してみたり、多くの家族が訪問し一緒に関わっていただきたいと金銭預かりを止めてみたり、受診対応を職員から家族へ変更している。グループホーム又外部の苦情申し立て場所も重要事項の中に明記するとともに事務所に掲示し、家族からの意見をホーム運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者との馴染みの関係が重要である事を認識し、離職を最小限に抑えるように職員とのコミュニケーションに努め、離職の場合には十分な引継ぎを行い、歓送迎会を入居者とともに行う等早期に顔馴染みになるように努めている。	○	運営者及び管理者は時間の許す限り職員の悩みや意見に対応していく意向である。継続的なケアや入居者・家族の安心に繋げるために更なる配慮に期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会で年4回行われるブロック研修会等職員のレベルに応じて参加している。実務者研修やケアマネージャ更新研修・リハビリテーション研修等の外部研修等に参加し、研修内容を会議で報告し、全職員へ周知徹底を図っている。内部での研修も看取り介護の勉強会等が行われている。	○	外部研修の開催日時等の周知徹底を図り、ケアのレベルを確認したり、マンネリ化の打開策として全職員へ外部研修の機会を設けられることを望みたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、同業者との交流促進に繋げ、情報交換や事例検討会等質の向上に努めている。グループホームのブロック有志で相互研修により交流を図り、他のホームの職員の受入れが行われている。	○	運営者は他のホームのやり方やよいところを学んでもらいたいという希望がある。管理者もそのため職員のシフト調整を行いたい意向である。職員も同業者とコミュニケーションを図ることや個々のレベルアップに意欲的であり、実現に向け取組まれる事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して、納得した上での入居とするため、職員が自宅や入居前の施設や病院へ出向き、説明をすると共に情報を得るように努めている。また事前に訪問してもらい、食事や入居者と過ごしてもらいホームの雰囲気を体験してもらおうようにしている。入居後は家族の頻繁な訪問や家族とゆっくり過ごしてもらうなど家族の協力・支援を受けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活歴や得意分野・趣味を把握し、生きがい作りや出番作り・自信へと繋げている。事務職であった入居者へ封筒の表書きや書道で題字を書いてもらったり、郷土料理や団子を作ったりと得意分野を発揮してもらうなど、入居者から学んだり、お互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで得た情報を基に、日々の介護記録に入居者の希望や意向を記録している。言語的コミュニケーションが難しい入居者や意思表示が明確でない場合は表情等から察知したり、家族の意見をもらい、本人本位になるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に本人や家族の意向やADLに沿って、入居者本位の介護計画が作成されている。家族の意向により服薬を減らすことが出来た等改善も図られているが、更に家族の意見を反映させたい意向である。	○	介護計画の重要性を理解してもらうため、実践による成果を明確に伝え、家族の意向を踏まえた介護計画にしていきたいと取組まれている。家族にカンファレンスへの参加を促され、更に入居者・家族の意見を反映したプランとされることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎週日曜日は入居者を交えたケアカンファレンスを行うと共に、特変時等見直しが必要なときに職員が集まり、現状に応じた介護計画となるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	健康管理に日々努める事で早期発見に繋げ、医療処置を受けながらの生活が継続でき、入院回避になっている。いきいきサロンの場所提供や特変時の受診等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医での受診とし、入居者と家族の関係再構築のため受診対応をホーム側から家族へ変更し、家族に心身の状況を詳しく説明するなど情報の共有化を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りに関する指針をもとに家族に説明している。今のところターミナルケアを行った事例は無いが訪問看護や往診により最期まで支えていくことを検討されたこともあり、看取り介護の勉強会をホーム内で開催している。	○	家族の意向に沿うために、かかりつけ医や職員と協議しホームで出来る事やどこまでできるか等見極め、具体的な状況に備えて全職員が共通意識のもと、24時間対応の協力医療機関の確保等により最期まで支えられる事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	“個人を尊重”の理念の実践に向け、自然な対応を心がけ、自尊心への配慮等高い意識で取組んでいる。たまには難聴の方に大声をだしてしまうケースもあり、管理者は日々の会話の中で取上げ、意識付けをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、食事時間や入浴時間等その人らしく生活する事を支援している。昼食後居室で休んだり、喫煙されたり、テレビを見たり、買物へ出たりと自由な生活であったが、午前中はラジオ体操等身体機能維持に向けた取り組みも行われていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を把握し、料理本も参考にしながら献立を立てている。出来る事を出来る人が手伝い、下膳等自然的に行われている。入居者の栽培された野菜も食卓に上り、そのことが入居者同士の会話へと広がりを見せていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じて、概ね一日おきに日中や夕食後に入浴が行われている。入居者の状態に応じたリフト浴や脱衣所にも扇風機やヒーター等を備えている。入浴拒否でも強制せず、職員の会話から入浴を導き、入浴チェック表からも健康管理と清潔保持に努められていることが窺われる。又、時には温泉で楽しんでみたり、系列のデイサービスの温泉入浴も楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の生活歴や能力に応じて、自然に得意分野を発揮できるように支援している。ごみ集めや洗濯物干し・たみ、料理への参加、新聞取り等様々な楽しみごとの支援や役割を持つことで自信回復へ繋げている		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の意向を踏まえて、散歩や食材の買出し等外出する機会を提供している。又毎月計画してのドライブや外食、家族と一緒に日帰り旅行等の支援も行われている。	○	遠方への個別外出の支援に課題が残る事が聞き取りの中で出てきたが、墓参や自宅へ帰って過ごす等も家族の協力が得られている。更に家族へ協力依頼をしたり、ボランティアの活用等検討いただきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの出入口は施錠されておらず、自由な出入りとなっている。職員の見守りや寄り添いにより出かけた様子を察知し、一緒に散歩したり、近隣商店での買物支援等を行っている。近隣の住民も見守り役として協力体制が構築している		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民も交えた消防訓練・避難訓練が今年度は行われている。ホーム近くにある消火栓の回し方や消火器の使い方等も地域と共同で行われ、地域の協力が得られるよう努力されている。地震や水害を想定した訓練も行ないたい意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後・午前午後のおやつ時と入浴後や就寝前等の水分確保と食事摂取量を日々観察し詳細に記録することで栄養管理が行われている。嚥下状況に応じてお粥やキザミ等の対応が採られている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造建築を活かした室内は、リビングを中心に居室を配置し、掘り炬燵のある畳の間等ゆっくりと過ごすことが出来る。玄関・リビングダイニングや廊下には入居者の作品を飾ったり、南側の縁側には椅子を配置し喫煙したり日向ぼっこで過ごす工夫がされ、ホーム周りに季節の花を植えたり、野菜を植え季節感を採り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドはホームが用意しているが、使い慣れた箆笥や神棚等を持ち込み毎日お供えをしたりと自宅の延長としての生活を支援している。家族の写真を飾ったり、自由にレイアウトをする等家族の協力も得られ居心地良く過ごせるように工夫した居室となっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社サカイケアセンター もみじ園
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県合志市
記入者名 (管理者)	吉村砂代子
記入日	平成 20 年 1 月 7 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、個人を尊重・地域とともに・仲良く楽しく、を基本理念に日々実践している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム玄関入口に理念を掲げ、運営者や管理者は会議などを通して基本的な考え方を示している。全てのスタッフがパンフレット通りの言葉では言えないにしても、自分なりに理解してその実現に向け努力している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットや入居時の書類に記載しており、説明を行っている。又、玄関に理念を掲示し、いつでも見られるようになっている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩途中での挨拶や、近隣の方から花や野菜の苗を分けて頂き、収穫した物をお返りする、などの交流を日頃から行っている。たまに近所の子供達が遊びに来たりして、徐々に交流が広がってきている。	<input type="radio"/> もっと気軽に立ち寄って頂けるようなつきあいが出来る雰囲気作りをこころがけていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加盟しており、地区の集まりや清掃活動には利用者と共に参加している。消防訓練は地区住民と合同で開催しており、又、市や自治会などの地域の行事は回覧板でチェックして、参加出来る物は積極的に参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	例えば介護勉強会などを開いていけたらよいと話し合いはしているが、まだ取り組みまでは出来ていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を理解する為に、全員で評価の項目を確認し、確認した職員から見解を出している。自己評価は全員で行い、現在の取り組み方や自己の振り返り等に活用し、改善を図っている。又、外部評価での指摘はすぐに改善につなげている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族の要望・意見を伺い、又、運営推進委員の方々を含めた意見交換を行い、サービス向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する意見交換会や研修会等には積極的に参加して情報を収集すると共に市担当者との連携に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会があり、その後のミーティングでスタッフ全体へ浸透させているが、個々の必要性を話し合ったり、活用するまでには至っていない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間で日常的にも話し合っている為、見過ごす事のないよう細心の注意を払っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加出来るよう支援していて、その研修報告を会議で行う事で、情報を全職員で共有出来るようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会に参加して情報・意見交換を行い、サービスの質の向上に役立てている。相互研修を計画し、受け入れは行ったが、派遣はまだ実現出来ていない。	○ 相互研修・派遣が出来るようシフト調整していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に数回全体での懇親会を開きストレスが軽減出来るようにしている。又、仕事上の悩みや困難の解決に向け援助している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心をもって働けるように勤務体制に気をつけ、役割分担を行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	その方の生活歴や特徴、嗜好等をよく訊き、本人との対話を多くする事で、主訴を理解するよう心掛けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安や思っている事、ホームに求めている事など、家族の意向を伺い、意向を取り入れることで御家族の不安が軽減出来るよう取り組んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの方針やサービス内容を伝え、利用が難しい場合は状態に合わせて他のサービス機関への紹介を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が本人宅、又は住居(病院なども含む)に伺い、御本人に直面してホームでの生活について説明をさせて頂いている。また、可能な限りホームに来て頂き、現在入居されている方がホームでどのような生活を送っているかを確認して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活暦や趣味を把握し、生活で培われた事を職員と一緒に行う事で、職員からの一方的な介護ではなく、また入居者の方から知恵や情報を教えて頂く事で、お互いに支えあう関係が築けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期受診は家族が付き添われており、行事に参加して頂いたり、家族会議や推進会議などで意見を頂いたり、職員と共に御本人を支える関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係が思わしくない場合には、これまでの背景などに十分注意しながら面会やの外出の連絡を行っている。又、良好関係にある方は引き続き家族が関わられるような機会作りをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にされてきた方と連絡がとれるように電話はいつでも利用できるようになっている。手紙のやり取りや馴染みの方との面会を積極的に受け入れている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフが、利用者同士の関係や、性格・趣味を把握出来ており、利用者同士で役割を分担して作業を行う等して、利用者同士のトラブルが起きないように配慮している。	○	相性の悪い入居者同士の関係については、少なくともそれが周りに波及して、一人対複数といういじめにならないようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終わり、本人の移住先を訪問する事はあるが、全ての方を訪問している訳ではなく、又家族へ連絡まではとっておらず、継続的な関わりをしているとは言い難い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を明確に言語化できる場合は随時訊くようにし、できない場合は過去の生活歴や家族の意見、本人の表情などから本人の意を汲み取って検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族に聞き、記録に残している。入所後に知り得た新しい情報も全スタッフが共有できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の生活リズムや心身状態を把握して介護するようにしている。しかし有する力の活用については、出来ることまで職員がしてしまう事が時々ある。	○	入居者が、何が出来て何が出来ないのかを把握し、出来る事は自分で行うようにすることを徹底していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それに努めようとはしているが、特に家族の意見については十分には訊けていないのが現状である。	○	家族に介護計画の重要性を理解して頂く為に、まずは計画を実践したことによる成果を明確に伝えていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の申し送りで見入居者の状態変化の確認を行い、必要に応じて御家族やスタッフ間で話し合いを行い、現状に即した計画を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きは生活記録に詳細に記録し、その内容を報告し合うことで情報共有を行っている。その共有した情報をもとに介護計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に合わせ、個々の要望に応じるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市の移動図書館は毎月、又、近所にある知的障害者授産施設のパンの訪問販売は毎週来られ、楽しみにしている利用者もいる。ボランティアは行事の時に社会福祉協議会を通して依頼しているが、定期的な支援を受けるまでには至っていない。	○	保育園や小中高の教育機関との交流機会をもっと作っていききたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問看護サービスを利用していた方もいたが、現在の入居者の中では、御家族や御本人から介護保険外を自費で利用したいとの申し出、希望はない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところホーム内での解決困難な問題などはなく、地域包括支援センターとの協働は行っていない。	○	入居されている方への長期的な支援を行う為に地域包括支援センターとの連携を検討する。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される前からのかかりつけ医を大切にしており、入居してからも継続して受診されている。又、御本人の状態に合わせて適切な医療を受けられるよう診療機関を紹介している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		職員が自己判断しないよう24時間いつでも連絡がとれるようになっている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	複数の入居者が重度化した時を想定し、その時どこまで対応しきれるかを総合的に検討していく必要がある。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけないように入居者と接するよう、常に意識を持ち努めているが、中には言葉かけや対応について配慮が出来ていない職員もいる。	○ 配慮出来ていない職員には、その重要性を理解してもらえよう根気強く説明していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉で正確な意思が表せない時は、選択肢を指し示して意思表示しやすくしたり、又普段の生活を把握した上で、表情や行動で本人の思いや希望を汲み取れるように努めている。	○ 結果として入居者の為になると思われる事でも、本人に選択権と決定権があるという事を念頭において、もっと入居者と会話を持って何事も決めていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の流れについては入居者それぞれのペースで生活できるよう、就寝や食事、入浴時間など本人の希望に合わせている。	○ ホーム内での生活はほぼ利用者の希望に合わせてきているが、個人的外出を希望されている方については、職員の人員の関係で実現できておらず、今後検討が必要である。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族の希望で行きつけの店に行ったり、ホームに訪問してもらったりしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の使い慣れた茶碗や箸を使用されていて、食事作りを一緒にしたり、下膳なども各自でおこなうようにしてもらっている。しかし献立については利用者の好みを反映させてはいるが、一緒に行っているとはいえない。	○ 献立に参加出来る入居者には参加してもらえようようにしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつは本人の好みに合わせて購入している。タバコはベランダで自由に喫煙されている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表でそれぞれのパターンをつかんだり、定時誘導したりして、出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおむね一日おきに、日中または夕食後、本人の体調や希望に合わせて入浴されている。風呂嫌いの方へは声かけの方法やタイミングを工夫して柔軟に対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度に、体調に合わせて昼間の睡眠や休息を支援している。休息場所も和室の畳やソファ、玄関横やベランダなど本人が選ばれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ゴミ集め、洗濯物干しとたたみ、簡単な掃除、お茶くみ、調理、畑仕事、新聞取り、歌やゲーム、ビデオ鑑賞など日々の生活の中で得意な事、好きな事、役割や楽しみを見つけていただき、個人の能力を生かせるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの能力に応じて、数名の方が自己管理されている。外出時などのレジでの現金の受け渡しは出来るだけ利用者の方に行っていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近所への買い物は希望に沿って出かけられるよう支援しているが、遠方への外出は希望があっても職員の人員不足で出かけることが出来ないのが現状である。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食やドライブ、花見などで毎月外出の機会を作っており、9月には日帰り旅行も行った。家族と自宅に泊まったり、墓参りや旅行に行かれる方もいる。	○	外出時は、家族へも参加を呼びかけているが、まだまだ少ないので、今後はもっと家族も参加しやすいような行事の内容や参加の促し方を工夫していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の制限はなく、自由に家族や友人などと電話や手紙でやりとりされている。希望があれば代筆したりダイヤルを手伝っている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時にはリビングや自室、応接室など自由に使用していたき、寛げるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急時の対応以外拘束しない、という事で全ての職員が理解できていて、実践している。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、出入口は全て施錠しておらず、自由に出入りできる。職員の見守りで安全面については配慮している。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在をさりげなく把握し、監視されているような気持ちを与えないように気を付けて安全に配慮している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在のところ注意を要する方は入居されていないが、注意の必要な物品が、すぐ手の届くところに置きっ放しにならないよう配慮している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態を把握し、問題が生じた時はヒヤリハットや事故報告書に記載し、会議や申し送りで情報を共有して改善策を話し合っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを備えてあり、一部の職員は外部研修で訓練を行っているが、定期的には行っていない。	○	定期的に訓練を行えるようホームでの体制の確立・関係機関との調整を行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した非難訓練・消火訓練を地区住民と合同で行った。夜間の通報訓練も行っているが、地震や水害を想定した訓練は行っていない。	○	地震や水害についての訓練も行っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	電話や面会時に生活の状況に合わせたリスクの説明を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	起床時や午前10時、入浴前後と入居者の体調に合わせてバイタルを測定し、また排泄や食事量も記録していて、生活の変化や異変は申し送りやノートを使用して情報を共有し、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供文は個人ファイルに綴じてあり、いつでも内容を確認出来る。しかしながら、全ての職員が薬の内容を把握しているとは言い難い。また誤薬を防ぐ為に、薬にはあらかじめ名前と日付を記入しておき、服薬時には必ず二人の職員で確認するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表で排泄間隔を把握しており、運動と牛乳や食物繊維飲料を準備したりして対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアはそれぞれの利用者に合わせた介助を行っている。数名の方は歯科訪問診療による口腔ケアを定期的に受けられている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はチェック表に記録しており、量や刻み・粥食については個々の摂食・嚥下状況、好みによって対応している。液体の飲み込みが困難な方へはゼリーや果物などを提供している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成しており、職員はいつでも見られるようになっている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は野菜・肉魚と区別しており、布巾類とともに毎日殺菌している。また賞味期限が過ぎた食材は廃棄していて、食中毒の予防に努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花や植木を置いて明るい雰囲気作りをしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に、季節の花を生けたり、行事の時の写真や創作物を飾ったりして家庭的で居心地の良い空間となっている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビがある和室にはソファが備えてあり、玄関横やベランダ、庭にも椅子を設置して入居者が思い思いに過ごせる工夫をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物品やたんす、神棚などを持ち込んで使っていただいている。写真や装飾品で飾り、居心地良い空間作りへの支援もしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝必ず窓を開けて空気を入れ替えており、さらに温湿度計でこまめにチェックして適温適湿になるよう心がけている。また利用者個々に合わせた対応もしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室に手すりを設置し、必要時は随時追加している。又危険物や通行の妨げになる物がないよう気をつけている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗面台の蛇口は旧式の単純な形にしてあり、また各居室やトイレ、浴室にはわかり易いように名前や目印をつけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭やベランダに、休憩や外気浴を楽しめるよう椅子を設置してある。又敷地内に花壇や畑があり草むしりや野菜の収穫を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

もみじ園では《 家庭 》という意識を大切にしており、入居者一人ひとりが自然に行っている生活が守れるように心がけて支援をさせて頂いている。その日の体調や気分散歩や買物、家事や炊事が出来るように・・・社会との交流を保っていけるように・・・外出する機会を多く持って楽しく暮らせるように・・・今年4月で開設5年目を迎える今、当園の理念である「仲良く、楽しく」「個人の尊重」「地域と共に」通りに、毎日が笑顔の絶えない家庭的なとても良い雰囲気が出来ていると思う。改善が必要な点は多々あるにしても、今のこの雰囲気は大事にしてスタッフ全員で取り組んでいきたいと思う。